

---

---

## 平成30年度第1回福祉のまちづくりモデル地区推進部会 議事録

平成30年8月24(金) 10:00～ 11:30 エコ計画浦和ビル2階西会議室

出席者 : 若林部会長、上松委員、小川委員、木次委員、鯨井委員、國松委員、鈴木委員、町田委員

欠席者 : 平林委員、丸山委員

関係団体 : 大橋(さいたま市社会福祉協議会)、志満・田中(さいたま市社会福祉事業団)、  
宮澤・渡辺・武田(特定非営利活動法人ライフアシスト Familish)

事務局 : 細沼、石川、石山(福祉総務課)

会議の公開 : 公開

傍聴人 : 0人

問合せ先 : 保健福祉局福祉部福祉総務課 048-829-1254

※敬称略

---

---

- 【次第】 1 開会  
2 議事  
    (1)平成30年度モデル地区推進事業について  
3 その他  
4 閉会

### 【内容】

#### 1 開会

若林部会長 挨拶(省略)

#### 2 議事

##### (1)平成30年度モデル地区推進事業について

事務局 資料1～2の説明(省略)

若林部会長 事務局の説明について何かご意見等がありますか。

國松委員 会場の都合等によりそれぞれ違いはあるかもしれないが、全体的には問題ないと考えている。

鈴木委員 関係者、特に講師の方々にご尽力いただいていると感じている。もう少し大人の参加者をどうやって増やしていくのか、このあたりが課題であると思う。

小川委員 この事業に関しては委員の意見も取り入れられ、かなりよくなってきていると思う。学習の中で色々な話をさせてもらっているが、時間に限りがあるため、今回もいろいろと考えているところであるが、その中で視覚障害者の方ができる将棋やオセロなどのゲームを見せてあげたいという気持ちがあり、そのようなものを見て触れてもらうなどできればと考えている。

- 町田委員 今回は4年生が対象となっているので、色々と工夫してやっていきたいと思う。
- 鯨井委員 知的障害に関しては、体験することも紹介することも、多様な障害であることから難しさを感じている。少しでもわかってもらえたらと努力している。他の委員の意見を聞いていると他の学習の教室にも行ってみたいと思うこともある。そのような機会もあればよいと思う。
- 木次委員 昨年は6年生であったため、割としっかりとしていた。今回は4年生であるため、なぜこの学習を行うのかといった、学習の前の前段の説明に関してはしっかりとやった方がよいのではないかと思う。
- 上松委員 色々と勉強してきたが、自分ももっと勉強しなければと考えている。
- 宮澤 (Familish) 今回も前回よりもっといいものにしたいと思っているので、持ち帰って、色々と工夫していければと思っている。前回は障害物を想定して跳び箱を設置したが、ただ跳び箱というだけではなく、障害物として自転車の絵を張るなど、もう少し具体的に感じ取れるようなものにしたいと思っている。
- 大橋 (社協) 今回(10月10日)は地区社会福祉協議会の別のイベントとぶつかってしまい、参加できない。現在、今年の内容については検討を進めているところである。
- 田中 (事業団) 前回、前々回とまち歩きに参加させてもらったが、今回も協力していきたい。
- 若林部会長 学校との打合せの中で課題はあったか。
- 事務局 今後も学校と打合せを重ねて、生徒への動機づけ等に関してしっかりとやっていきたい。
- 若林部会長 では、次にまち歩き学習について、説明をお願いいたします。
- 事務局 資料3～4の説明(省略)
- 若林部会長 この地域に関しては、比較的平坦なところで、ある意味では成熟した市街地と言える。なにかご意見等がありますか。
- 國松委員 個人的にはこの地域に関しては楽しみにしている。以前、北浦和駅から浦高通りの間に自分の事務所があった。浦高通りから事務所まで点字ブロックが敷設され、また、公民館や自治会館等にスロープを設置する活動を行っていたこともあった。現在の状況について、興味もある。
- 町田委員 25名を3つぐらいのグループに分け、それぞれ講師を配置したいと思っている。4年生であるので、どれぐらいの理解があるのか、前回は6年生であり、生徒とも話をして非常によかったが、今回は遊んでしまったりあまり関心をもたれないこともあるかもしれない。事前に先生からそれぞれの障害について話をしてもらったうえで、当事者の話を聞くというのが良いと思

う。

- 若林部会長 25名をさらにグループ分けすることについてはいかがが。
- 事務局 問題ない。
- 宮澤 北浦和駅については、よく利用もしているので生徒たちへの説明もより丁寧にすることが出来ると思うので、楽しみにしている。
- (Familish)
- 若林部会長 児童によってははしゃいでしまう子もいるかもしれない。いかに集中力を持続していけるかが重要である。交代ポイントにおいて、うまく引き継げるようにしていければよい。
- 鈴木委員 それぞれのコースの特徴について伺いたい。
- 事務局 各コースについては、まずは学校からコース案について検討していただいたものとなっている。実際に事務局にて歩いて今回提案させていただいた。正門コースについては、電話ボックスや信号機があり、旧中山道沿いを歩くコースとなっている。東門コースについては、自動車の通行が不可能なコースとなっている。視覚障害のアイマスクや高齢者の疑似体験をする中においては比較的安全面については優れたコースとなっている。北門コースについては、基本的には平坦なコースではあるが、急な坂道が一部あるコースとなっている。
- 若林部会長 東門コースは歩行者専用道路か。
- 事務局 自動車は通れないようになっている。
- 若林部会長 コースによって特色があるようである。各コースに団体が振り分けられているが、それについてはよろしいか。
- 鯨井委員 知的障害については体験や介助が難しい。生徒に話をしたり質問をしてもらったり、街中で危険なものや、掲示板をずっと見てしまうといったことなど説明をして歩く。興味を持ってもらえればよいが、ただふざけて終わってしまうグループもある。他の体験とは違った部分もあるので、当日の内容については今後詰めていきたい。ふれあい学習までには内容を詰めて、学校とも話ができるようにしたい。
- 町田委員 耳栓の準備を昨年と同じようにお願いしたい。
- 國松委員 東門コースについては、他の道路とは違い、感じられるものは少ないかもしれない。
- 木次委員 東門コースは遊歩道となっていると思う。視覚障害や聴覚障害のある方は、旧中山道をどうやって渡っているのかを知ってほしい。旧中山道を渡ることは困難であり、そのために各行事に参加できないということもある。障害のある方が旧中山道をどうやって行き来をしているのかということが一番問題なのではないかと思っている。旧中山道をうまく取り入れられたらよい。どのように介助したらよいかといったことも勉強になる。遊歩道はあまり意味がない

のではとも感じる。

國松委員 わたしも同感であり、旧中山道と浦高通りははずせないのかなと思っていた。ただし、学校の意見もあるので、難しい。

鈴木委員 國松委員と木次委員の意見も理解できる。しかし、安全性ということがあり、小学校4年生がガードをまわれるかというと必ずしもそうではない側面もある。講師や教職員の数も限られている中での安全の確保は大事である。東門コースにおいても道路を数か所横断するポイントはあるので、そこで今の課題を解決できればと考えるがいかがか。

若林部会長 視覚障害と高齢者を体験するコースとなっている。視覚障害はアイマスク、高齢者は高齢者疑似体験ということであるが、コースに沿った内容としていくことになるのかと考える。なにか事務局で意見はあるか。

事務局 いただいたご意見を学校にも伝えさせていただく。

若林部会長 Familish はいかがか。

宮澤 高低差のあるコースということなので、車いすを体験してもらうにあたっては伝えられることも（Familish）あるため、良いと思う。

若林部会長 遊歩道も一つのまちの特徴である。それを共有化したうえで歩く、色々なことを経験して歩くことが大切である。今後の発表の仕方を工夫するなどしていただくなど、学校ともよく話をしていたいただければと思う。

事務局 このコースを担当していただく講師の方のご意見はいかがか。

小川委員 今の話だけで判断することは難しい。我々の場合は行き当たりばったりか、事前に少し歩かせてもらうしかないなので、ここで意見を言うことは難しい。

若林部会長 社会福祉協議会の方はいかがか。

大橋 地元の地区社協と話をしたときには、北浦和小からマルエツまで行くまでの間に、高齢者の方にとって何が障害になるのかを考えてもらえればという話はしていた。ただ、学校の立場を考えると安全性を最優先して、遊歩道を歩くことで、もっと危険な場所を歩いたときは何が障害になるのかを想像してもらうというのでも良いと思う。

若林部会長 まち歩きの前にはふれあい学習もあるので、それまでに内容を詰めていければということでもよいか。

事務局 資料5の説明(省略)

若林部会長 さいたま新都心のバリアフリー体験は昨年いかがでしたでしょうか。鈴木委員いかがでしょうか。

鈴木委員 2回参加させていただきましたが、道路や点字ブロック、室内のトイレなど、配慮がなされ非常に整備が進んでいる地区である。比較するには良い場所であり、今回もぜひ実施していただきたい。ボランティアの方の説明もわかりやすく、こども達もよく聞いていた。

若林部会長 学習発表会はグループでの発表ということですが、今回は4年生という学年ということもあるかと思うが、いかがか。

事務局 昨年度もグループ形式をとらせていただいたが、個人による発表に比べ、しっかりと発表を聞くこともでき、お互いに話ができるなど、講師の方をはじめ、皆様からよかったとのご意見をいただいた。

小川委員 個人での発表に関しては、いろいろなところでしゃべっているようで、しっかりと話を聞くことができなかった。昨年の方式であれば、生徒が発表し、講師がコメントするというので、お互いの意思が伝えられ、非常によかった。生徒の気持ちも理解でき、こちらの思っていることも伝えられる。やってよかったと感じることが出来た。昨年は紙芝居や人形劇のようなもの、浮き上がる文字を作ってくれたりなど、今までになかったものがあり、非常に感心した。前回のような形でやってもらいたい。4年生という時期にいろいろ思うこと、体験することも大切であると思う。

國松委員 点字ブロックについては、昨年度一年かけて総務省が調査を行った。報告書も完成していると思うが、事前に学習としてそれが参考になるとよい。報告書があればお届けしたい。

鈴木委員 発表会は講師と生徒との対話の場である。講師からの説明、質問については大変に効果があったものと感じている。小川委員と同感である。今年も工夫をしながら進めていただきたい。

若林部会長 今年度の取組については以上のような形ですすめていければと思うので、よろしく願いしたい。

## (2)その他

若林部会長 何かご意見等ございましたらお願いします。

若林部会長 事務局から連絡はありますか。

事務局 特にありません。

若林部会長 この事業はこども達と直接ふれあえる事業となっている。ぜひこのような事業がさらに広がっていけばよいと思う。

## 3 閉会

以上